

「こおりやまの米」通信

平成28年7月26日

編集：郡山市

JA福島さくら郡山地区本部 (TEL. 921-0533)

NOSAI福島郡山田村支所 (TEL. 933-3307)

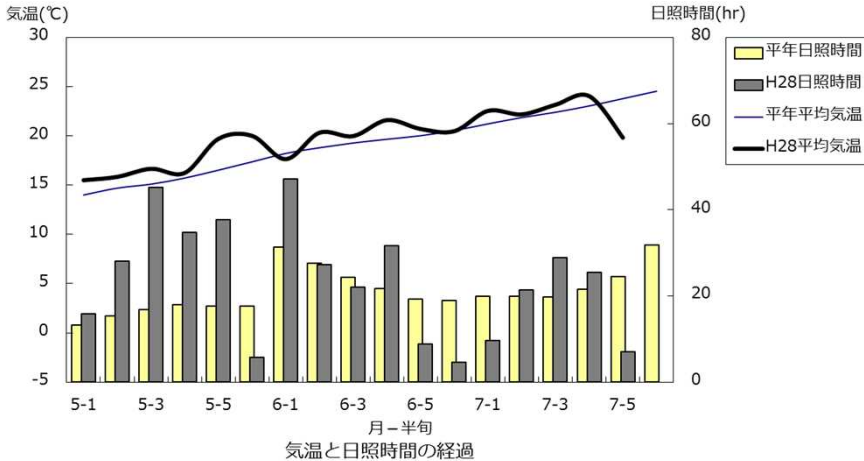
県中農林事務所農業振興普及部 (TEL. 935-1310)

発行：郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市園芸畜産振興課 TEL.924-3761)



Vol.7 次号は9月上旬(刈取適期)

*最新号はJA各支店窓口にそなえてあります



7月26日 生育調査結果

品種 (調査地点)	年次	幼穂長 (mm)
コシヒカリ (三穂田)	本年 平年	9 5
コシヒカリ (田村)	本年 平年	28 23
ひとめぼれ (安積)	本年 平年	49 34
天のつぶ (三穂田)	本年 平年	53 11
あきたこまち (湖南)	本年 平年	169 174

1 天気予報

<東北地方 1か月予報>

(7月21日 仙台管区気象台発表)

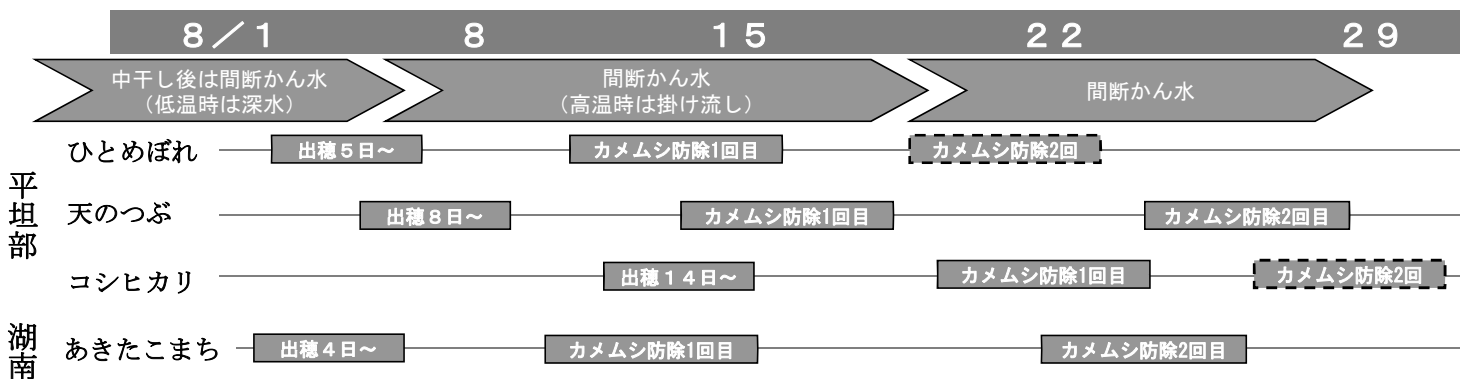
向こう1ヶ月間の気温は平年に比べ低く、日照時間は少ないでしょう。また、降水量は平年並みか多い見込みです。

冷害の発生やいもち病をはじめとする病害、カメムシの被害が拡大する恐れがあります。病害虫防除所や県の農業技術情報などをこまめにチェックし、最新の情報を入手して栽培管理に利用しましょう。

2 生育概況

今年の稲の生育は、7月26日の生育調査で平年並み～やや進んでおり、出穂はひとめぼれが8月5日、あきたこまち(湖南)が8月4日、天のつぶは8月8日、コシヒカリは8月12日前後と見込まれます。なお、出穂日は移植日や今後の天候により前後しますので、自分の水田で幼穂の長さを確認しておきましょう。

3 生育及び作業の目安



【管内主要品種の生育の目安です】

品種	幼穂形成始期 (月日)	出穂期 (予想月日)	乳熟期 (予想月日)
ひとめぼれ	7月11日	8月5日	8月12～15日
あきたこまち (湖南)	7月10日	8月4日	8月11～14日
天のつぶ	7月14日	8月8日	8月14～18日
コシヒカリ	7月18日	8月12日	8月19～22日

※幼穂形成始期：主茎3本の80%以上の幼穂が1mmに達した日

※出穂期：全穂数の約半分が出穂した日

※乳熟期：籾を指で押しつぶすと乳液状の時期

住宅地などの 周辺に配慮

【農薬危害防止運動展開中！】

- 住宅地などの周辺ほ場で農薬を散布する場合は、農薬の飛散防止対策を講じるとともに、事前に農薬の種類や散布日時を記した看板により周辺住民に周知しましょう。
- 農薬は誤飲・誤食による中毒事故や悪用を防止するため鍵のついた保管庫で管理しましょう。

適切な保管で 誤飲・誤食を防止



4 水稻の生育状況を把握しましょう！

(1) 出穂期の判定方法

幼穂長による出穂前日数の判定方法は表1のとおりです。出穂期を予測することで、適切な水管理や穂肥の時期、カメムシ防除の適期を判定することができます。出穂期は天候や栽培条件により変化しますので、幼穂長で確認しましょう。

(2) **出穂5日前以降の追肥(実肥)**は、玄米のタンパク質含量が高まり、食味が低下するので行わないで下さい。

出穂まで日数の判定方法

幼穂長	出穂前日数	備考
1mm	25日	幼穂形成始期
8-15mm	18日	止葉抽出
80mm	12日	減数分裂期
150mm	8日	葉耳間長0cm
205mm	4日	

5 水管理

(1) 幼穂形成始期から減数分裂期は稲が低温に弱い時期です。この時期に平均気温が20℃以下又は最低気温が17℃以下に遭遇すると花粉が障害を受け、不稔が発生するおそれがあります。

(2) 低温時には深水管理を行い、幼穂を低温から保護します。水深の目安としては幼穂形成期で10cm以上、減数分裂期で15～20cm以上の深水管理を行うことが必要です。また、この水深が確保できない場合でも、可能な限り深水とすることで被害を軽減することができます。

(3) 登熟期前半(出穂始めから20日間程度)に夜温24～25℃以上の日が5日以上続く場合は、白未熟粒(乳白粒等)の発生による玄米品質の低下を防止するため、掛け流しが有効です。用水の掛け流しの困難な場合は「昼間掛け流しー夜間落水」又は「昼間湛水ー夜間落水」の水管理により効率的に地温を下げるすることができます。

6 カメムシ類対策

減数分裂期が低温・寡照に経過すると割れ籾が発生しやすくなり、カメムシ類による被害粒発生の原因となります。

(1) 畦畔雑草の管理: 2～3回の草刈りで幼虫・成虫ともに大幅に密度が低下します。

ただし、出穂期前後はカメムシを水田内に追い込む場合があるので、**出穂10日前以降は草刈りを行わないで下さい**。

(2) 1回目の防除: 粉剤、液剤等による防除は、乳熟期を基本とします。粒剤を使用する場合は、**穂揃期～乳熟期**に湛水状態で散布します。

(3) 追加防除: その後も発生が見られる場合は7日おきに追加防除を行きましょう。

割れ籾はカメムシによる吸汁を助長します。割れ籾の発生しやすい品種(あきたこまち、天のつぶ)では、出穂20日後頃の追加散布が重要ですので、**乳熟期と出穂20日後の2回散布**を基本にしましょう。

7 いもち病対策 【低温・雨の続く予報が出ています！】

いもち病が発生してしまったら

ブラシン粉剤DL(3～4kg/10a、収穫7日前まで)、又は、**ブラシンプロアブル(1000倍、60～150L/10a、収穫7日前まで)**を散布しましょう。

特に以下の条件が重なる場合は注意して下さい。

- ・平均気温が15～25℃
- ・稲体表面に水滴が8時間以上持続して付着している
- ・前5日間の平均気温が20～25℃

カメムシ防除に有効な農薬例

薬剤名	使用量	使用回数	使用時期
※1MR.ジョーカー粉剤DL	3～4kg/10a	2回以内	収穫 7日前まで
スタークル粒剤	3kg/10a	3回以内	
キラップフロアブル	※21000～2000倍、60～200L/10a	合わせて 2回以内	収穫 14日前まで
キラップ粒剤	3kg/10a		

※1蚕に対する毒性の強い農薬であり、使用規制地域を確認のうえ使用しましょう。

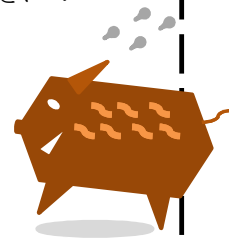
※2希釈倍数・散布量

【電気柵を正しく設置し

イノシシから水田を守りましょう！】

イノシシの食害は乳熟期以降に増加します。電気柵はイノシシから稲を守る有効な方法ですが、その効果を**最大限発揮**させるためにも、以下の点を再確認して下さい。

- ①ワイヤー高は20cm、40cm！
- ②碇子(がいし)は水田の外側向きに！
- ③雑草による漏電注意！
- ④電圧をチェック！
- ⑤ワイヤーの緩みチェック！
- ⑥近くに生ごみを捨てない！
- ⑦支柱はしっかり立てる！
- ⑧水路等のスペースを無くす！



平成28年産米の全量全袋検査への御理解と御協力のお願い

昨年に引き続き、平成28年産米についても販売米、縁故米、くず米等、生産されたすべての玄米を対象として「全量全袋検査」を実施します。JAや米穀出荷業者等で行う検査を受けて安全を確認した上で、米を販売、譲渡、消費されるようお願いいたします。

なお、土やゴミ等の異物混入による基準値超過を防ぐため、米の調製作業時は、作業場や乾燥・調製機械の清掃等、異物混入の防止策の徹底をお願いいたします。

問い合わせ先：郡山市農業政策課 TEL 024-924-2201 県中農林事務所農業振興普及部 TEL 024-935-1310